

執筆者紹介

(五十音順)

天笠 啓祐 (あまかさ・けいすけ)

フリージャーナリスト。市民バイオテクノロジー情報室代表。「遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン」代表。遺伝子組み換え(GM)とGMO編集の研究に関する日本の第一人者。遺伝子操作への厳しい批判の先頭に立っている。

枝元 なほみ (えだもと・なほみ)

一般社団法人「チームむかご」代表。認定NPO法人ビッグイシュー基金共同代表。農村と台所をつなぎ、「大人食堂」「夜のパン屋さん」などを通じてフードロス、子どもの食、貧困問題などに取り組み続けるパワフルな料理研究家。

大川 雅史 (おおかわ・まさお)

国際農業開発学博士。日本中のタネを集める(独)農業生物資源研究所ジーンバンクで上席研究官として研究を続け、品種の登録にも携わった。UPOV、ITPGRなどの国際条約も担当。タネに関する条約や法令の国内唯一の専門家。

岡崎 衆史 (おかざき・しゅうし)

農民運動全国連合会国際部長。TPP(環太平洋連携)協定、日米FTA(自由貿易協定)、RCEP(地域的な包括的経済連携)協定などの分析に深く携わってきた。ピア・カンパシーナなど世界の農民運動とのつながりも深い。

木村・黒田 純子 (きむら-くろだ・じゅんこ)

医学博士。環境脳神経科学情報センター副代表。夫・黒田洋一郎氏とともに殺虫剤、除草剤などの農業や有害化学物質が、脳の発達に悪影響を及ぼすことを究明し多数の学術論文を発表。農業の健康被害に関する科学情報を発信中。

鮫田 晋 (さめだ・しん)

千葉県いすみ市農林課主査。趣味のサーフィンが縁で15年前、同市に移住し、東京の会社員を辞めて市職員に。故稲葉光國氏(民間稲作研究所)の教えと技術を得て、コメの有機栽培を市に根付かせた。100%有機米の学校給食実現の仕掛け人。

島村 菜津 (しまむら・なつ)

ノンフィクション作家。東京芸術大学美術学部芸術学科卒業後に留学したイタリアで共感したスローフード運動を『スローフードな人生!』(新潮社、2000年)で日本に紹介。欧州の食と農の事情に詳しく、日本の学校給食等にも熱心に取り組む。

杉山 敦子 (すぎやま・あつこ)

日本の種子(たね)を守る会事務局長。米国で農業や遺伝子組み換え食品を避け、オーガニック食を広げるMoms Across America 運動に共感し、「食べもの変えたいママプロジェクト」立ち上げメンバーに。現在代表。

鈴木 宣弘 (すずき・のぶひろ)

東京大学大学院教授(農学生命科学研究科農学国際専攻)。農水省勤務の後、農業経済学者に。TPPの日本農業影響試算を行うなど、日本の食と農を巡る幅広い研究では右に出る人はいない。著書多数。今も全国を講演で駆け回っている。

田井 勝 (たい・まさる)

弁護士。勝訴したアスベスト訴訟で原告代理人。種子法廃止違憲確認訴訟共同代表として、訴訟当初から心血を注いでいる。同訴訟では、全国各地に出かけ、種子栽培農家や現場関係者から熱心に話を聞くなど、仕事への責任感が強い。

高野 慎太郎 (たかの・しんたろう)

自由学園男子部教諭。農業を営む祖父の畑で幼少期から土に親しんで育つ。教員として、自分で調べ、考え、討論するユニークな授業を実践。「種苗法改定」を題材とした授業では、高校生たちは種苗条例案まで起草した。

久田 徳二 (ひさだ・とくじ)

北海道大学客員教授。元北海道新聞編集委員。定年退職後、大学教員とフリージャーナリストとして活動。講義、講演のほか原稿執筆、時々畑の日々。北海道たねの会代表、北海道食といのちの会会長、北海道農業ジャーナリストの会副会長。

平岡 秀夫 (ひらおか・ひでお)

弁護士。東京大学卒業後、旧大蔵省に入省。内閣法制局参事官を経て退官。民主党政権下で法務大臣を務めた。死刑執行には一貫して慎重で、在任中に執行命令書への署名はしなかった。現在、種子法廃止違憲確認訴訟弁護団メンバー。

福嶋 浩彦 (ふくしま・ひろひこ)

中央学院大学教授。元消費者庁長官。元我孫子市長。市長時代には介護保険で同市独自の指針をつくり、厚労省を押し切った。住民による一定数の署名があれば必ず住民投票を実施しなければならない条例をつかった。

八木岡 努 (やぎおか・つとむ)

JA茨城中央会会長。イチゴ専業農家。水戸農協会長、JAグループの進歩的研究グループ「新世紀JA研究会」の会長、日本の種子(たね)を守る会設立の立役者であり前会長。

安井 孝 (やすい・たかし)

NPO法人愛媛県有機農業研究会理事長。2020年春まで今治市職員。農水港湾部地産地消推進室長当時、遺伝子組み換え作物への厳しい規制を盛り込んだ「食と農のまちづくり条例」の制定に貢献した。全国各地で講演に引っ張りダコ。

安田 節子 (やすだ・せつこ)

食政策センタービジョン21主宰。NPO法人日本有機農業研究会理事。アクティブドントラスト理事。「遺伝子組み換え食品いらない!キャンペーン」事務局長時代に、表示・規制を求める全国運動をリードした。食の安全問題に詳しい。

山下 快 (やました・かい)

農業雑誌「現代農業」編集者。東京農業大学在学中に休学し、1年間カンボジアのNGOで有機農業に従事した。卒業後、(一社)農山漁村文化協会に入会。娘が3人。休日は次女の少年野球チームでコーチ・審判を務める。

山田 正彦 (やまだ・まさひこ)

弁護士。故郷長崎県五島列島で牧場を開き、弁護士活動の傍ら、政治家に。民主党政権で農水大臣を務めたが、政権のTPP推進方針に反発して辞任。今も、全国で講演。TPP反対、食と農を守る日本の運動をけん引している人物の一人。

山本 伸司 (やまもと・のぶじ)

種子島のサトウキビ農家。種子島沖ヶ浜黒糖生産協同組合員。パルシステム生活協同組合連合会元理事長として、TPP反対運動などの先頭に立った。日本の種子(たね)を守る会を、設立当初から幹事長としてけん引している。

吉田 太郎 (よしだ・たろう)

長野県職農として農業畑を長く歩いた。筑波大学卒業後から地域の有機農業に関わり、キューバ農業、持続可能型農業などに関する多くの著書がある。県内外の有機農家をつなぐ、有機農業プラットフォーム推進にも携わる。



頒価200円(税込)

日本の種子(たね)を守る会

目次

—はじめに—

第1章 日本の食は大丈夫？ 安全なものを食べたい

- Q1 遺伝子組み換えとゲノム編集はどう違うのですか？…………… 2
- Q2 日本が世界で一番遺伝子組み換え食品を食べている？…………… 4
- Q3 日本でゲノム編集されたトマトがあると聞きました。本当ですか？…………… 6
- [column_1] 世界からタネが消える…………… 7
- Q4 農薬のことが心配です。子どもたちへの影響は？…………… 8
- [column_2] ラウンドアップ裁判でモンサントが敗訴…………… 9
- Q5 なぜ有機農業が注目されているの？…………… 10
- Q6 世界では有機栽培が盛んになっていると聞きますが、日本では？…………… 11
- [column_3] 学校給食は有機食材で！…………… 12

第2章 種子法廃止、種苗法改定でどうなる？ わたしたちの食とタネ

- Q7 種子法はなぜ廃止されたのですか？…………… 15
- Q8 種子はどのように育てられ、進化してきたのですか？…………… 16
- Q9 種子法が廃止されてこれからどうなりますか？…………… 18
- Q10 種苗法は何のための法律ですか？…………… 19
- Q11 種苗の海外流出を止めるために改定が必要だと聞きましたが…………… 20
- [column_4] 「農産物検査法施行規則」の見直しで起こること…………… 21
- Q12 種苗法改定で、農家の自家増殖にどのような影響がありますか？…………… 22

- Q13 自家採種と自家増殖の違いは何ですか？…………… 24
- Q14 有機農家は、伝統的な在来種のタネ採りを続けられますか？…………… 25
- Q15 種苗法改定後も家庭菜園でタネ採りをできますか？…………… 26
- Q16 農水省は登録品種は1割もないから農家に影響はないと説明しましたが…………… 28
- Q17 種苗法が改定されて農家に混乱が生じている？…………… 30

第3章 わたしたちにできることは？ タネの未来を守るために

- Q18 タネの未来を守るために何から始めたら良いのですか？…………… 32
- [column_5] グローバル企業の種子支配…………… 33
- Q19 種子法廃止を受け、各地で種子条例がつくられている？…………… 34
- [column_6] 自治体と各府省庁は対等です！…………… 35
- Q20 都道府県が開発した優良な品種を守れますか？…………… 36
- [column_7] 中高生たちを中心に独自の「種苗条例」を起案…………… 37
- Q21 伝統的な在来種や固定種を守る方法がありますか？…………… 38
- Q22 「ゲノム編集」「遺伝子組み換え」作物の栽培は、条例で止められますか？…………… 40
- [column_8] 心配なわたしたちの食料安全保障…………… 41

—タネとわたしたちのこれから—



タネとわたしたちのこれから

種子は食料の根幹に関わる大事なものです。安全・安心、安定供給が大前提。種子法が廃止され、種苗法も改定となった今、農業を企業と捉え、経済の原理に引きずられてはいけなく感じています。大量生産できる、売れる種子ばかりが流通し、利益が出ない種子が消えることがあってはならない。適地適作で繋いできた種子や苗を次世代に渡すことは、私たちの大きな使命だと考えます。

コロナ禍による変化もありました。食料の海外依存に対する不安が高まり「国消国産」の大切さが再認識されたこと。オンライン活用が進み、働き方改革とも相まって地方への移住を考える人が増えたこと。いわゆる「農への憧れ」が注目されている今こそ、農業のファンを増やし、種子を守るための条例制定などへの理解を深めるチャンスだと思っています。実際に、学校給食食材の地域自給率を上げ、有機無農薬食材にしていこうという活動には、いいね、頑張っ、という声を一般の方々から頂戴しています。「地域で採れるおいしい農産物を地域で食べる」——これは守るべき文化です。だからこそ「わが国の食をどうしていくか、生産者と消費者と一緒に考えていきましょう」と訴えたい。

2021年5月、農水省により「みどりの食料システム戦略」が策定され、カーボンニュートラル（脱炭素社会）など、2050年までに目指す行程が提示されました。日本の種子を守り、伝統有機農法の再評価など“原点回帰”の心構えで、持続可能な営農環境をめざし、子どもたちにより良い食とタネをつないでいきたいと思います。

日本の種子(たね)を守る会
<https://www.taneomamorukai.com>

 Facebook
<https://www.facebook.com/taneomamoru/>

 Twitter
<https://twitter.com/SaveSeedsJapan>

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 ISPタマビル7階
一般社団法人日本社会連帯機構 気付
FAX:03-6697-9519
TEL:070-2291-5011(平日10:00~17:00)
Mail : tane.mamorukai@gmail.com

発行/日本の種子(たね)を守る会
編集委員/鈴木 宣弘 久田 徳二 杉山 敦子
企画・制作/ポプラ社
タイトルロゴ/山福 朱実
イラスト/コイヌマ ユキ
デザイン/小倉 万喜子

(本誌情報は2021年7月現在のものです)

*この冊子は1部200円(送料別)でお申し込みいただけます。
詳細はホームページで。



会員募集中!

「日本の種子(たね)を守る会」では会員を募集しています。
都道府県での種子条例や種苗条例の制定を目指して
一緒に活動しませんか。
会員には個人会員・団体会員があります。

【個人会員】 2,000円(1口/年)

【団体会員】 20,000円(1口/年)

詳しくはWEBへ

<https://www.taneomamorukai.com>

